

『住民参加のまちづくりに向けて。』

市議会議員になって2年が過ぎました。

我ながらとても密度の濃い2年間で、本当にたくさんの方々に会いました。皆さんのご意見をお聞きすると同時に、できるだけ市政の現状を知ってもらうことが改革の第一歩だと思います。議会が終わる毎に報告書をまとめ配布していますが、初めて会った方でも「いつも読んでるよ」と言ってくれますが、本当に嬉しいです。傍聴にも大勢の方が来て下さいますが、3月は若いお母さん達が誘い合って来てくれ感激！事前に彼女たちから話を聞いて、問題を執行部と議論し、より良い方策を考えてもらう。こうしたことの積み重ねが、市民参加のまちづくりにつながると実感しました。今回のことで、私自身も色々なことを教えられました。

バスや防災、ごみの問題、ふるさと納税も、市民の力が必要です。地道にコツコツ、皆さんと一緒に幸せへの道を探っていきたいです。



市政報告会

日時:5月20日(土)10:00~11:30

場所:菜の花ホール 1階集会室
(館山市北条1735) *図書館隣

参加費:無料

*市議会議長の「榎本祐三さん」をゲストにお招きして、「2年間の議長経験」についてお話しいただきます。

*身近な問題を、皆さんと一緒に楽しく考えていく会です。

どなたでもお気軽にご参加ください。

(予約不要)

お問い合わせ

・FAX & 留守電 29-5333

・Email muroatsumi@gmail.com

3月議会報告・・・むろあつみの当初予算質疑・討論より

平成29年度当初予算案

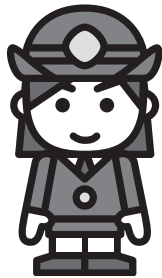
一般会計・・・176億円(7.7%減)
特別会計・・・151億円(1.5%増)

昨年、市長は安房広域でのごみ焼却場建設からの離脱を表明したことから、近隣市町との契約を反故にするほど財政が危機的状況にあると認識せざるを得ません。従い、聖域なく事業の見直しを行い、効率的な資金の使い方を真剣に考えるべきですが、今回の予算編成は、これまでのやり方の延長に過ぎないと感じました。長期的な財政見直しを早急に作成することと抜本的な対策を強く要望した上での賛成討論となりました(内心忸怩たる思いもあります。全文はHPで)。

◆防災士と消防団による

防災体制の構築

市が進める地域の防災リーダー育成の第一弾として、50人が試験を受け防災士となりました。女性は6名ですがうち4名は市の職員だそうです。防災については消防団が組織的な活動をしているので、以前から訴えている女性消防団についても、立ち上げに市の職員の協力を再度強く訴えました。鴨川市では市長のリーダーシップのもと、当初は市の職員で女性消防団を立ち上げ、徐々に市民を増やしていったとのこと。要は本気で女性消防団が必要と考えているかどうかではないでしょうか。



◆ふるさと納税

市の努力で、歳入を増やせるだけでなく産業活性化や館山PRにも繋がる「ふるさと納税」を有効活用できる方策を提案し続けてきました。昨年、返礼品の公募制度を導入してくれたおかげで前向きに取組む事業者も増え、平成28年度納税額は約7千万円で約2倍に増えました。ただ鴨川市、南房総市に比べるとまだ約半分です。

4月から市民が館山市に納税した場合にも返礼品がもらえるようになりました。返礼品はお友達に送ることもできます。市外の知人にも館山市へのふるさと納税を積極的に勧めて下さい！市民全員が館山PR隊になって税収増、産業振興に関われるツールだということを是非知っていただきたいのです。また、この寄附の使い道にも工夫するよう要望を続けています。

◆集団回収の工夫

ごみ減量化に有効な手法である「集団回収」について質問しました。館山市では現在、ごみを10種類に分別、再資源化することとで売払収入を得ています。地域住民の自主的な集団回収によって、回収量に応じて売払収入が得られること、ごみの分別・リサイクルに対する意識が更に向上し可燃ごみの減量化につながる等々のメリットを認識しているものの、市内での認知度は低く、広報紙や各種団体の会合の場など様々な機会を捉えて集団回収の周知に努めていくとの回答を得ました。

むろあつみの行政一般質問より

1. 館山市の住宅事情と空き家バンクの有効活用

館山市の住宅施策の前提となる需給状況などを確認しました。

市独自の調査(目視)では、空き家は1,972件(うち供給可能な空き家1,739件)と発表されていますが、総務省統計では総戸数26,270件中空き家が6,600件(別荘等2,020件含む)で空き家率が25%にも達します。一方、移住先として家賃はそれほど低くないのです(表参照)。こうした状況も正しく認識して情報共有する必要性を感じます。

賃貸物件の平均家賃比較

	家賃平均 (月・円)	延床面積 平均 (㎡)	家賃単価 (円/㎡)
館山市	48,382	50.68	955
鴨川市	40,857	40.29	1,014
南房総市	36,400	56.44	645
いすみ市	39,085	57.19	683
富津市	37,904	46.89	808
木更津市	51,990	51.65	1,007

平成25年 総務省『住宅・土地統計調査』

空き家バンクはNPO法人おせっかいにお任せの状態ですが、3月現在の登録は2件に過ぎません(南房総市19件)。これまでの契約累計30件という

ことでしたが、昨年の建設経済委員会視察先の島根県雲南市では移住定住促進に力を入れ、10年間で空き家に入居した移住は328世帯と館山市の10倍です。毎年の新規空き家バンク登録も30〜40件のぼりです。空き家片付け事業補助金、空き家改修事業補助金等の施策の効果が着実に表れています。大いに参考にして欲しいです。

2. 福祉と観光に役立つ公共交通の整備について

これまで公共交通の質問に対し、窓口の企画課は『現在のバス路線を維持するためとにかく乗って下さい』の一点張りでしたが、行きたい場所に行けないなど使い勝手が悪い状況を放置したままで、お金を払って乗れというのでしょうか。

今回は観光と福祉の部署から、色々課題があることを認識している、との答弁もありました。

また、議会の場に限らず、西岬地区住民と事業者との意見交換の場も実現し、改善に向けた動きが始まるとうしています。智慧や各方面との調整など力技も必要な難しい課題ですが、全国の地方都市では続々と行政主導で新しい試みがなされています。100円循環バスを運行している草津町視察の紹介もしました。館山市もマスタープラン作成など抜本的な対策に乗り出すよう、働きかけを続けて参ります。

3. 『インクルーシブ教育』

教育委員会や学校管理職の発達障害に対する知識や理解が乏しく、児童や保護者の希望をくみ取ってもらえない、というお母さんから相談の声がありました。私自身もまだ十分には理解できていないですが、障害のある者とならない者が可能な限り共に学ぶ仕組みである「インクルーシブ教育」の考え方や発達障害に対する理解を広めたいと思います、今回取り上げました。

市の「マザーズホーム」(心身障害児通所事業)利用者にも会い、「本当に助かっているが知らない人も多い。もっと知名度を上げてはどうか。ただ偏見を持たれるのは怖い」「就学後通えなくなると思うと不安で仕方ない」等の声を聞きました。切れ目ない支援の重要性も痛感しました。

市内のある小学校長は、「支援級の子たちの環境を整えると、学校全体が

傍聴者の声 (一部略)



●初めて入る議場にちょっとドキドキしつつ、興味関心のある質問・答弁をふむふむと聞くことが出来て、為になる有意義な時間となりました。私たちくらいの年代は、もっともっと市政に興味を持ったほうが良いと思う！一市民なのだから。

みんなこの地域に大満足しているわけじゃなくて、少なからず理想や不満があると思う。それなら市政に耳を傾けて、どうしたら良いのかを市民ひとりひとりが働きかけて行くことでよくなっていくんじゃないのかなあ。って。

感想、一度は行ってみるべし!!

(Tさん、30代女性)

●初めて議会を傍聴し本当に良い経験をさせていただきました。今まで市政とは無縁と思っておりましたが、実際に私達の声を議会にあげただけだ事に感激しています。プライバシーの問題もあってとても難しいとは思いますが、やはり多くの保護者・教職員に発達障害について知って頂く必要があると感じました。・・・支援級に対しての偏見から支援が必要な子供たちが支援を受けられず窮屈な思いや、悲しい思い、またいじめに繋がる事にもなりかねません。

(Mさん、40代女性)

ご紹介 NPO 法人たからばこの「ほっとカフェ」

発達障がい児とその家族などを支援する活動をしている「たからばこ」では、気軽に悩みを話し合ったり交流する場として毎月第2金曜、第4水曜の10:00~12:30まで「ほっとカフェ」を実施しています(オープンスペース400円ドリンクサービスあり)。5月12日に私も訪ねてみようと思っています。

たからばこ事務所：南房総市府中662-2
電話：0470-28-4710

良くなる、優しくなれる」と発言されたそうです。多様性を認め合える、社会にしていくことが目標です。